

人工観葉植物で太陽光を可視化

丸みのある植木鉢のような白いポディイの上に、小さなソーラーパネルが生えている。今までに見たことのない不思議な物体は、化学素材メーカー、日本ゼオン（東京都千代田区）が開発した育成型人工観葉植物「LNES（ルネス）SL-03」だ。

ソーラーカード（カード型の小型ソーラーパネル）で発電し、スマートフォン専用のアプリ上で発電量を確認したり、発電状況に連動してキャラクターを育てたりできる。明かりやスマホ充電器の機能も付いているが、光を求める観葉植物のような、太陽光を意識して心豊かに暮ら



「LNES SL-03」は高さ20センチほど。重さは約160グラム

日本ゼオン 「LNES SL-03」

すツールとしての性格が強い。

開発が始まったのは平成26年。技術の進歩で暮らしを便利にすることと、少々不便でも人間らしく生きることも大切という、相反するテーマが共存する商品を作ろうというのが



立脚点だ。「売れそうなものを作るのではなく、社会を良くする新たな価値を創造しようと考えた」と責任者

の児島清茂さん＝写真＝は振り返る。結果として、新しい価値を生む新規事業や持続可能な社会を目指し、SDGs（持続可能な開発目標）に取り組みことを中期経営計画に掲げた同社の方針に合致する商品となった。

今春から発売を開始。女性や親子の反応が特に良いという。直射日光や熱中症を避けるためのアラート（警報）代わりにしたり、ベランダでの育成に適した作物を探すため1日の日当たりの変化を調べるツールになったりと、意外な使われ方もある。

「太陽の光を数値で可視化すれば、その価値をしっかりと理解できる」と児島さん。将来的には利用者の発電量を合算していく機能も付けたいといい、「楽しみながら循環型社会に貢献したい」と強調した。